

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぼらりすあんど		
○保護者評価実施期間	2025年10月14日		～ 2025年 11月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2025年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 13(1名休職中)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職による支援	言語聴覚士や理学療法士、保育士、教員などの多職種が連携し、それぞれの専門的な視点から多角的にアセスメントを行います。カンファレンスを通じて情報を共有することで、子ども一人ひとりに最適な支援計画を立案・実施している。	各専門職の配置にとどまらず、職種間の相互研修を通じたスキルの融合を図ります。最新の知見を取り入れた事例検討を重ねることで、専門職同士の相乗効果を生かした独自の支援プログラムを開発し、より質の高い療育の提供に努める。
2	保護者支援	ご家庭や学校での困りごとに対し、解決に向けた具体的なサポートを行っている。電話やLINEでの相談窓口を設け、ご家族の不安に寄り添いながらスピーディに対応し、さらに、関係機関(学校・自治体・医療等)と密に連携することで、ご利用者様を取り巻く環境を総合的に支えるようにしている。	学校や医療機関等との「顔が見える連携(訪問や合同会議)」を深め、生活圏全体で途切れのない一貫した支援体制を構築することに努める。
3	子どもの発達状態に応じた個別活動と集団活動による支援	子どもの発達状況に合わせ、コミュニケーションや身体の使い方、構音訓練などの「個別支援」と、運動遊びや創作活動を通じた「集団支援」をバランスよく実施している。ルールや社会性の習得を促すとともに、一人ひとりに最適な支援方法を職員間で常に共有し、チーム全体で成長を支える体制を整えている。	専門職(ST・PT・心理・保育・教員等)の視点を統合し、より客観的で深い分析に基づいたオーダーメイドの支援計画を立案・実施する。日々の支援の質を高めるため、研修等へ積極的に参加し、最新の知見や技術の習得に努める。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報公開媒体の未整備	SNSやホームページの更新頻度や、保護者がアクセスしやすい環境づくりが不十分であるため、事業所の透明性を高める情報が届ききっていないことが推測される。	SNSやホームページにおける事業所の自己評価結果や安全対策への取り組みを積極的に公開していく。 SNSを見ない保護者様にも配慮し、重要な事項は書面や事業所内掲示での案内できるようにする。
2	非常時等の対応への認知不足	避難訓練等は定期的には実施しているが、その様子や計画が保護者に可視化されていないため、保護者への説明、周知の方法においては改善が必要である。た、訓練についても、全利用者が参加できていない。	訓練について、できるだけ多くのご利用者様が参加できるように設定し、実施後の子どもの様子などについて伝える機会を設ける。また、契約時に避難経路等を渡すなど災害時にスムーズに対応できるようにしていく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ぼらりすあんど

公表日 2026年2月18日

利用児童数 55

回収数 36

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	34	1		1	身体が大きいのでもう少し広い空間で活動できたらと思う事があります。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	36					
	3 療育空間は、子どもに何をすべき場所かわかりやすい環境設定になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	34				2	
	4 療育空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	36					
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	34	2				
	6 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されていると思いますか。	36					
	7 個別支援計画には、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	36					
	8 個別支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	35	1				
	9 事業所の活動内容が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	32	2		2		
保 護 者 へ の 説 明 等	10 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	36					
	11 「個別支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	36					
	12 保護者が子どもの行動や特性を理解したり、子どもへの関わり方・対応について学ぶ機会が設けられていると思いますか。	35	1				
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況、課題について共通理解ができていると思いますか。	36					いつもアドバイスをいただきありがとうございます。 ございます。
	14 定期的に保護者に対して、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	35	1				面談いつもありがとうございます回数がもう少し多いと尚ありがたいです。
	15 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	36					
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対して、そのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	36					
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	35	1				
	18 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	27	2		7		
19 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	35				1		
非 常 時 等 の 対 応	20 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	30	4		2		
	21 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	28	4		4		
	22 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	34				2	
	23 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	34				2	長く通所させて貰っていますが、事故等は一度もありません。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
満 足 度	24	子どもは安心感をもって通所していますか。	33	3				
	25	子どもは通所を楽しみにしていますか。	32	4				
	26	事業所の支援に満足していますか。	36					

ご自由にお書きください（ご意見・ご要望）

- ・兄弟でお世話になっておりいつもありがとうございます。
弟の通所する姿勢が以前と比べて良い方向に変化があり親としてもびっくりしています。
- ・いつも支援していただきありがとうございます。
面談の際、子供の態度やその時の先生や周りの子供たちの反応などが詳しく聞いてその時に子供がどんな様子だったのかを初めて知る事が多く、普段帰りに先生から聞くお話では周りに人がいる事や子供がいることで先生も言葉を選んでもらう事が多いかと感じたので、LINEや何か他の方法でも良いのですがどんな形で人と関わったか？などが分かると学校等でもその時の事が活かせたりつながるのかな？と思います。一人一人に伝える事は難しいかと思いますが、そこを知れる機会があるとすごく嬉しいなと思います。
- ・いつも適確にサポートをしていただきありがとうございます。今後はちょうちょ結び等ができるようになると嬉しいです。
- ・いつも親切にしてください嬉しく思います。ぼらりすあんどに行くのをとても楽しみにしています。
- ・開所の時から兄弟でお世話になっておりありがとうございます。困った時に公式LINEからも適切なアドバイスを貰えて助かっています。
- ・外国人ですが、いつも丁寧な対応をしていただきありがとうございます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ぼらりすあんど		公表日 2026年2月18日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12	1	相談室を別室に配置し支援室を広く使用できるように努めている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	13		職員の配置が適切になるように日々調整管理を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11	2	玄関には段差がありますが、必要に応じて職員が付き添い安全に配慮するなど、状況に応じた対応を行っている。設備面においても、それぞれの障害特性に応じて情報が伝わりやすいよう視覚的な提示を取り入れるなど、環境上の配慮に努めている。	個別対応中心となっているため、職員間での共有や統一をさらに図るようにする。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12	1	感染症予防のため、施設内・玩具・遊具の消毒をケースごとに行っている。 活動によって、遊具や設備を移動して工夫している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12	1	複数の療育室、相談室を必要に応じて使用できるようにしている。	グループ活動の際に複数の子どもがクールダウンするスペースが足りない可能性がある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	13		個々の支援目標や事業所全体の課題について定期的に共有することで、特定の職員だけでなく、広く職員が意見を出し合える体制を整えている。 また、支援の経過や子どもの変化をもとに「目標は適切か」「支援方法は有効か」といった視点で話し合いを行い、必要に応じて目標や取組内容を見直すようにしている。日常的な情報共有の場をPDCAサイクルの“Check（評価）”と“Action（改善）”につなげることを意識し、継続的な改善に取り組んでいる。	日々の会議の中では時間的な制約もあり、振り返りが十分に深まらないことや発言する職員が固定化しやすいという課題がある。 今後は、年間・半期ごとなど一定期間での体系的な振り返りの機会を設けることや書面やアンケート形式で意見を集めるなど、より多くの職員が参画しやすい仕組みづくりが必要である。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	1	保護者向けアンケートを実施。結果を保護者へ返し、業務内容の改善に向けて職員間で検討している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	1	日々行う連絡会議やカンファレンス、年1回の職員への聞き取り等で確認し、職員会議の議題にして検討している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		13		運営については、第三者に意見を求めて業務改善につなげているが、外部評価という形をとっていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12	1	内部研修の機会を確保している。外部研修やカンファレンスにも積極的に参加している。出席できない非常勤職員にも内容を伝達したり、個別に研修を行ったりしている。	時間的制約があり、十分とは言えない。 日常の療育を通じて、実践的に学習し合う機会を設けることが必要である。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13		支援プログラムを作成し、ホームページ上において公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	12	1	活動における様子や保護者様からの聞き取り、発達検査の結果を反映して計画を立てている。職員会議でそれぞれの専門職からの意見、情報交換を行っている。また、保護者面接の時に子どもの家庭や園での様子を聞いて、計画に反映するようにしている。	客観性を重視する場合、園からの情報も集約して分析し、児童発達支援計画を作成する必要がある。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13		職員会議で、子どもについての情報交換を行った上で、それぞれの専門職からの意見をもとに検討している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13		支援計画に沿った利用ごとの目標を設定し、職員会議を通して共有している。また、その提供記録やカンファレンスを通して、達成目標の評価を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12	1	契約時にアセスメントシートを用い、保護者様より情報を得ている。また、日々の保護者様との面接において、確認している。	新しい標準化されたツールを取り入れることを検討する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12	1	ガイドラインの示す支援内容と保護者面接及び、利用者様の行動分析や特性をもとに、利用者様に必要な支援目標を設定して、支援計画を具体的に説明するようにしている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13		個別活動では、それぞれの専門職の意見も踏まえながら内容を決めている。グループ活動では、事前の打ち合わせを行い、意見を出し合いながら内容を決めている。グループ活動後には振り返りも実施している。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12	1	利用者様の課題に応じて（家庭や園においての課題・将来の自立に向けた課題等）、その都度、設定している。個々に合った内容であるか、固定化していないか等を常に職員会議で話し合っている。	行動目標だけにすると固定化しやすくなるため、自己調整の発達段階、対人理解の発達段階、実行機能の成熟度といった発達のプロセスに基づく目標設定を行うことも検討する。また、支援を“減らすこと”に注目して、声かけを減らす、視覚支援を段階的に外す、成功体験を一般化させるといったフェードアウト設計をあらかじめ組み込むようにする。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	13		家庭や集団（保育所等）で状況を保護者様や所属機関等から聞き取り、利用者様の課題に応じて、個別活動と集団活動に対応できるようにしている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	2	子ども一人ひとりの課題や目標を共有し、「本日の支援で特に意識する点は何か」「どのような関わりを大切にするか」といった具体的な視点をすり合わせたうえで支援に入るようにしている。	話し合いが経験や感覚に依存しすぎないように支援の根拠や目的をより明確にし、記録や振り返りを通して客観的に検討していく。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	2	責任者も交えながら情報を整理し、必要に応じて視点を補い合うことで、個々の見立てに偏らないよう心がけています。日々の打ち合わせに加え、適宜職員会議やカンファレンスを実施し、支援目標の妥当性や関わり方の方向性について検討する機会を設けている。	支援の評価が経験や感覚に依存しやすい側面もあるため、目標に対する達成度や子どもの変化を客観的に確認できる視点をより意識するようにする。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13		担当している子どもについて、職員間で助言を行い合いながら毎回、記録している。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13		保護者様から状態や必要な支援について情報を得て、必要に応じて計画の見直しを行っている。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	13		子どもたちの特性に配慮しながら、放課後等デイサービスガイドラインに沿って、活動提供している。	
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	13		利用者様が玩具や遊び等を場面に応じて選択できる機会を設定している。	
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13		要請がある時には児童発達支援管理責任者が参加している。	
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11	2	地域の病院（医師）と嘱託医契約等、医療連携を行っている。また、児童発達センター、地域の障害福祉課、子ども家庭支援課と連携しながら、適宜情報を共有している。	
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	13		学校行事等は、ホームページの情報やご家族からの情報で確認している。また、子どもや家族の希望に応じて、情報共有を行っている。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	12	1	保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所、相談支援事業所と就学前の様子を共有するようにしている。	
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		13	放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する利用者様が少ないため、情報提供を行っていないが、今後の対象利用者様に対して行う予定である。	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	12	1	児童発達支援センターとの情報共有を必要に応じて行っている。	
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		13	事業所内での個別支援を中心としている。グループ活動においては、利用者様同士の交流を基本としている。現在のところはそういった活動はしていない。	
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	13		日時を極力合わせて児童発達支援管理責任者や支援員が参加している。	
	34 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13		定期的に保護者面接を行っている（月1～3回）。その際に家庭や園の様子、子どもの発達状況や課題を共有している。	
35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	13		ペアレント・トレーニングや研修会としての場は設けていないが、定期的な保護者面接の中で、家庭での子どもへの関わり方や環境設定の方法、子どもへの伝え方等を提案したり、その後の振り返りを行う中で別方法の提案等を行っている。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13		運営規定等については、契約時に説明をしている。支援の内容や利用者負担等については、毎月、知らせしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13		定期的に保護者面接を行っており（月1～3回）、その際に家庭や園の様子、子どもの発達状況や課題・意向を確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	13		その都度、説明や確認を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13		定期的に保護者面接を行っている（月1～3回）。保護者から相談がある際には、その都度、面接や電話で対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		13	家族間の関係性もあるため（それぞれの家族によって認識も違うため）、開催、実施は行っていない。	参観などを通して、横のつながりが持てる機会を設定していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13		その都度、迅速に対応している。保護者には、契約時に説明し、対応には児童発達支援管理責任者が担うことを周知している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	13		必要に応じて、保護者向けのお知らせを掲示したり、公式LINEアカウントで配信したりする等、連絡事項の周知を図っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13		記録類は施錠できるロッカーに保管している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13		保護者様に子どもの行動の意味を伝えたり、子どもの発達状況を確認したりしながら、子どもの理解に繋がるように保護者面接を行っている。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		13	現在のご利用者様および保護者様の安心感を最優先とし、事業所内での安定した支援を重視しています。今後は当事者の意向を踏まえながら、無理のない形で地域とのつながりを検討している。		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13		各マニュアルを策定し、周知している。様々な状況を想定しながら訓練を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13		BCPを策定し、様々な状況を想定しながら訓練を行っている。	利用頻度や支援形態により、全ての利用者様に訓練に参加して頂くことが難しい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	12	1	契約時にアセスメントシートを用い、家族より情報を得ている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	/		食べ物の提供は行っていない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練を定期的に行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	5	契約時に安全計画に基づく取組みに関して説明している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13		その都度、気になることは口頭、会議で共有し、事例集を作成している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13		職員には研修を行い周知している。保護者には契約時に周知している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	13		契約時に説明している。		